

社内報 11 月号

株式会社NITTOH

大阪に自社所有の事業所建設へ

かねてから探していた大阪事業部及び阪神営業所の建設用地として、大阪府豊中市に適当な物件が売りに出され、購入前提で交渉中です。面積は319坪で、最寄駅は阪急宝塚線の岡町駅で、駅から徒歩約15分です。高速道路のインターからも近く、車の移動にも利便性は高そうです。順調に進むと 11 月には契約し、建設を進めて、来年夏ごろの完成・移転を目指しています。宝塚の阪神営業所がそのまま転居する予定で、倉庫兼事務所として法人主体の活動拠点にする計画です。倉庫、事務所、駐車場とも現在の事務所よりかなり広くなります。今年度は、大阪事業部の業績が好調に推移しており、事務所を兵庫県から大阪府に移動させ、関西地区としては初めての自社物件の事務所をつくり、さらなる発展へと弾みをつけたいところです。

不動産課のリノベーション物件が完成

今年度から活動している不動産課のマンションリノベーション物件の第一号が完成し、販売を開始します。写真からもわかるように全く違う部屋へと生まれ変わりました。



リノベーション前



リノベーション後

現場の工務社員が充実

工事量の増加に伴い、社員の工事体制の充実を図っており、求人活動を各地で活発に実施しています。経験者の方も、また、若くフレッシュな方も入社してきており、かなり充実してきました。初めころは、入社後の教育体制が不足で苦労することも多かったのですが、最近は各地で教育体制も整いました。今期の利益増の大きな要因として、社員施工グループが、力をつけて効率よく、し

っかりと現場を納めてきていることがあげられます。人数が増えてきたこともあり、協力業者さんも含めて、各地で施工品質のばらつきをなくし、高いレベルでの均一化を図っていくことが課題になってきました。同一工種での連携や研修体制のさらなる充実を図っていくことの必要性を感じます。職人さんの不足が叫ばれる中で、工事会社である当社としては、他社に負けない施工体制を構築していくことは会社の實力そのものに繋がりますから、しっかりと地に足をつけて、働いている人たちの将来にも責任をもち、お客様にも満足していただける体制を築いていかないとはいけません。優秀な協力業者さんたちは、当社の大きな財産であり、社員施工グループとともにとても大切です。お互いに切磋琢磨して、強いチームづくりに邁進していきましょう。

耐震イベントに出展

日本住宅耐震補強が、耐震シェルターをイベントに展示。耐震強度の算定方法の変更や補助金の削減などで家全体の耐震補強には費用がかさむようになり、補助金をもらわないで倒壊を防ぐだけの最低限の補強を行ったり、シェルターで一部のみを補強する需要が増えています。



交通事故に注意

これから年末に向けて、交通量が増加してきます。このところ事故が増加傾向にありますので、安全運転を心がけ事故にはくれぐれも注意しましょう。加害者になることはもちろん避けたいといいますが、被害者になることもないように注意して運転しましょう。また、会社車両は、社員(パート、アルバイト、嘱託も含んで)が運転することを条件に任意保険をかけています。繁忙時期になりますが、社員以外の人(協力業者さんなど)が使用することのないように再確認をお願いします。

コラム 歴史から学ぶ。「義を貫く」か、「利害で動く」か。

日本の大手企業の不祥事が続いています。日本を代表するような企業の身勝手な動機というか、我儘な行動が多大な迷惑を社会にかけています。誰の人生にも幾たびの岐路があり、人生をかけた大きな選択の時もあると思いますが、むしろ人生を形成しているのは、連続して発生している日々の小さな選択ではないかと思えます。そうした小さな選択が、その人の人格を形成していき、いろいろな縁を導いていきます。今回の不祥事も日常の多くの、小さな選択が積み重ねた結果です。悪い

性格(企業も人も)が形成されて、どつぶりついていたのであり、突如として起きた問題ではありせん。決断をする時に何に普段から基準をおいているかの違いです。戦国時代の武将たち、また、明治維新の志士たち、戦争を経験した人たちなど歴史上の偉人たちは自分たちの命を懸けて、「義を貫き」領民を守るため、国民を守るために、決断をしていました。その生き方、死に方とも言えますが、私たち日本人はそうした人生観に感動し、共感します。そうした生き様が、人との深いつながりを形作り、歴史に残る偉業を成し遂げてきました。立派な日本人は、本当にたくさんいました。歴史でも「利」で動いた人たちも多いたと思いますが、皆みじめな結末を迎えています。「義を貫く」例は沢山あるのですが、一つ例を挙げてみます。明治維新の歴史上の奇跡と言われる江戸城の無血開城は、西郷隆盛と勝海舟により行われるのですが、この二人の会談を実現させたのは山岡鉄舟でした。鉄舟は官軍(西郷側)の江戸城総攻撃をとめて、江戸市民を戦火から守るために、自分の命を懸けて西郷のいる官軍の陣地へと走り、西郷に直談判を行いました。あの西郷が「金もいらぬ、名誉もいらぬ、命もいらぬ人は始末に困るが、そのような人でなければ、天下の偉業は成し遂げられない」と鉄舟を大絶賛しています。そして、江戸城は引き渡され、誰の血も流れることなく江戸幕府は終焉し、鉄舟は江戸市民の命を守ることができたのです。そして、維新後、明治政府として西郷は、鉄舟を明治天皇の教育係にしているということも見逃せない史実です。それほどに西郷は、鉄舟という人間にほれ込んだということでしょう。鉄舟の教育は、明治天皇から昭和、平成天皇へと受け継がれて、我々日本人の拠り所として底流として生き続けているのだと思います。

こうした「利」ではなく、「義」に生きる日本人の話の後で、一企業のちっぽけな利益や個人の見栄が源泉である東芝と旭化成建材の不祥事を考えると、日本人が恥ずかしいほどに小粒になった気がします。東芝においては、こうした人たちがあれほどの大企業で出世したわけですから、他に人材がないのか、人を評価する軸が短小軽薄化してしまったのか、いづれにしても恥ずべきことです。日本の企業幹部の教養の低さは、実は外国からよく指摘されるところです。東日本大震災の時に日本人の思いやりや礼節は、世界から絶賛され、日本を訪れる外国人も日本人の親切さには感心するのですが、そうした良いイメージがあるだけに、企業人の教養の低さ、品の無さが驚きとともに目につくのでしょうか。仕事と言って、夜の街に繰り出して、高いお金を使い、ゴルフをすることが仕事と堂々と言うようなことは、どこかおかしく国際的に経済レベルでも衰退をしている要因はそんなところにもあるのでしょうか。明治の軍を支えていた人たちは、留学すると数年で数か国語を流暢に操り自分で国の威信をかけて相手とも交渉を行い、国のためにすさまじい努力で学んでいました。日露戦争で、満州軍総司令官として日本を勝利に導いた西郷のいともあ

る大山巖は、薩摩弁が濃くて日本語は江戸出身の人にはわかりにくかったようですが、英語、ドイツ語、仏語を流暢にあやつる教養人でした。司馬遼太郎の「坂の上の雲」にでてくる日露戦争でバルチック艦隊を破った海軍参謀の秋山真之は、米国留学中に「自分が一日怠ければ、日本の進歩が一日遅れる」と語ったそうです。西郷隆盛と吉田松陰は、獄中生活、流刑にされていますが、二人ともその間に何百冊もの本を持ち込み、学んでいます。不祥事を起こした会社の幹部をそうした偉人と比較するのは酷かもしれませんが、しっかりとした教養を身に着け、人間を磨く努力を継続していれば、こんなことにはなっていませんね。一人ではなく複数人というか、会社の幹部の

多くがみな似たような人たちの集まりとなっており、ブレーキをかけることができない、集団に流されやすい日本人を象徴しており会社ぐるみと言われても仕方がないところです。ただ、業界が重層構造や工期が短くてとか、業界全体の問題であるかのようなことが言われたりしますが、そんなことは決してなく、あくまで旭化成建材の単独の会社の問題です。仕事であれば、建設業界だけでなくどの業界でも、厳しいコスト競争の中にあり、工期や納期を守ることも当たり前で、コストのためにも少しでも早くやるのがいいのに決まっており、圧力がない世界などありえません。でも、道徳やルールは、皆守ります。何か一社が問題を起こすと、規制を強化したりするのですが、基

本はあくまで法違反をしているのであり、著しいモラルの欠如があるのであって、犯罪をおこした個人、企業の問題であり、その会社に徹底的に補償をさせ、犯した罪、迷惑かけた分の償いをさせるべきで、そうした追求が甘く他の誠実に仕事を行っている人たちを冒涇するかのような、全体の問題に軽々しくすべきではないし、そうした報道をするマスコミにも大いに反省をしてほしいところです。こうしたところにも日本人の独立していない甘えの構造とマスコミも「利」で動いていると感じて不快です。

施工事例紹介

- 施工場所：愛知県春日井市 ○様邸
- 工事名：外構工事



- 担当：名古屋東店 伊藤嘉朗

今回ご紹介させていただく物件は、何年にも渡り、外装改修・浴室・内装工事をさせて頂いているお客様です。

今回も相談会にお越しいただき、庭を直してほしいとのご依頼があり施工をさせて頂きました。

工事の打ち合わせは奥様、娘さん、職人さんで行い、色・形など色々と話し合い、レンガの位置や花壇の位置などあれこれと置きながら完成の運びとなりました。

今回もすごく楽しく仕事ができて、仕上がりに満足していただきました。

既に別の工事の打ち合わせにも入っているのでも、そちらも満足していただけよう、良い提案をしていきたいと思っております。

ちょっと一言

「読書の秋」



奈良営業所
坪井 健太郎

皆様お疲れ様です。奈良営業所の坪井です。
当社に転職し入社して早いもので1年3ヶ月が過ぎようとしています。異業種からの転職で建築や住宅設備はおろか道具の使い方や材料も全く知らなかった私ですが周りの方に支えられ今日まで来ることができました。

最近急に寒くなってきましたが皆様体調はどうですか？季節の変わり目なので朝晩と昼間、1週間の間でも大きく温度差があり服装の調節が難しい時期ですね。急激な気温変化は体調を崩しやすいので風邪などにはご注意ください。

前置きが長くなりましたが今日は読書についてお話したいと思っております。私は半年ほど前から毎日読書の時間をとっています。元々学生の時から読書は好きでしたが社会人となり日々の忙しさで一時期離れていました。しかしまた見かけた雑誌の記事に読書にはメリットしかないという記事を見てから読書の時間を作ろうと思いました。その記事によると読書は文章力やコミュニケーション力が鍛えられ、またストレス発散・脳の活性化にも効果があるそうです。またいろいろな知識を得ることもできるので視野を広げることに最適だそうです。

たった6分程度の読書でも効果があるとのことなので忙しい方でも移動中や睡眠前など時間をとることができるのではないのでしょうか。私もただ楽しみのための読書ではなく苦手な会話力や表現力をもっと身に付け仕事に活かすことで楽しみながら成長できたらよいなと思っています。

「読書の秋」ともいいますし皆様もお気に入りの一冊を見つけてみてはいかがでしょうか。

入社社員紹介

★西岡 伸樹 セブンハウス事業部 係長 37歳

資格：宅地建物取引士

趣味：サッカー、旅行、スポーツ観戦

「新たな気持ちでお客様との家づくりに臨みます。」



★Happy News★

資格取得おめでとうございます

★静岡営業所 佐橋所長代理 二級防水施工技能士



実りの秋



コスモス畑